

芳賀町消防団

自分たちの地域は

自分たちが**守る**

消防団 PRIDE



消防団は、火災における消火活動はもとより、台風、豪雨、地震などの自然災害における救助活動や被害を防ぐ活動、その他地域行事に参加するなど地元に着着した活動をしています。

近年、ここ芳賀町でも地震や竜巻、集中豪雨など自然災害による被害が発生しました。

まず、自然の恐ろしさを改めて思い知らされた災害と言えば、平成23年3月11日に起きた「東日本大震災」でしょう。同日14時46分ごろ、宮城県三陸沖で日本国内観測史上最大規模のマグニチュード9.0の地震が発生し、太平洋沿岸部を巨大な津波が襲いました。その上、福島第一原子力発電所事故が発生するなど、東北から関東にかけて東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。芳賀町でも震度6弱を観測し、一部で避難勧告が発令されました。被害は、死者1人、家屋の倒壊、崖の崩落、ライフラインの停止など多岐に渡りました。この震災は、日本中が災害の恐怖を実感し、防災を意識するきっかけとなりました。

さらに、昨年9月に発生した「関東・東北豪雨」も、記憶に新しい災害です。栃木県・茨城県のほぼ全域に大雨特別警報が出されました。茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊し、栃木県内でも死者が出るなど、各地でこの大雨による被害が報告されました。

また、昨年8月13日には、大字東水沼で竜巻が発生しました。激しい風はごく短時間であったにも関わらず、住宅の屋根の飛散や屋根瓦のめくれなどの被害がありました。

このように自然災害は、目に見える形で増加傾向にあります。いつ起きるか分からない災害。地域のことをよく理解している消防団だからこそ、万が一の災害発生時に発揮される力は大きいものです。消防団がいるから安心できる。そのように感じている人も少なくないでしょう。

「全ては、地域のため——」今回は、皆さんの安全安心な暮らしを守るため、ひたむきな姿勢で災害に立ち向かう消防団をクローズアップします。